

## エステシヨットブライトと金属床の良好な関係

<はじめに>

- 今回の実験では**エステシヨットブライト**と、一般的にノンクラスプデンチャーで使用されているポリアミド系レジンを使用して、双方の金属床の適合精度の検証・比較をしてみました。
- エステシヨットブライト**の収縮率と一般的に使用されるポリアミド系の収縮率の違いやそれに合った石膏を使用した場合、どのような影響があるのかを調べ表にまとめてみました。

### 《金属床と模型の適合》

マスターモデルとメタルフレームの適合は写真

①②のとおり問題ございません。

ここをスタートに、樹脂填入後の適合精度の比較・検証を行います。

### 《使用樹脂の収縮率を考慮した各作業模型上の金属床の適合状態》

膨張係数の高いポリアミド系の作業模型とメタルフレームの適合は写真③のとおりです。(☞写真)通常弊社ではこの段階において作業模型上で適合を出します。適合前の状態が、右記の写真です。**エステシヨットブライト**の方は作業模型上での適合は④の写真のとおりとても良好です。

右下の表にもあるように、それぞれの樹脂の収縮率にあった作業模型用の石膏を使用するので、③と④の様な状態になります。

①ポリアミド系

②エステシヨットブライト



③ポリアミド系

④エステシヨットブライト



樹脂名	収縮率	使用石膏	膨張係数
エステシヨットブライト	0.05%	超硬質石膏	0.08%
ポリアミド系	0.5%	膨張石膏	0.5%

### 《完成義歯の適合の様子》

各樹脂の完成の写真です。⑤⑥のとおりです。収縮率・膨張係数通りの結果となりました。作業模型に対しての金属床の適合精度の差が今回の結果となり現れました。

### 《まとめ》

今回、このような発表をさせていただきましたが、臨床ではポリアミド系樹脂を選択した場合でも、**エステシヨットブライト**を使用した場合でも、遜色無い適合を求められます。

細かい調整が必要な分、ポリアミド系の義歯の方が作業は煩雑になりますし、個人の高いスキルがもとめられます。この様に、経験などが大きく結果を左右する不安定な要素を排除するためには、毎回、安定した適合が実現可能な**エステシヨットブライト**の選択が現実的ではないでしょうか。

この様な結果を提示させていただくことで、皆さんの今後の臨床に生かしていただければ、幸いです。

⑤ポリアミド系

⑥エステシヨットブライト

